てるてる坊主の不思議 AtoZ

Message

雨もようの日、軒下にてるてる坊主が吊るされているのを目にしたら、私たちは「ああ、あした晴れてほしくて誰かが吊るしたんだな」とわかります。
でも、そもそも晴れを願うのになぜ坊主頭の人形を作って吊るすのでしょうか？

晴天祈願のてるてる坊主は、私たち誰もがなんとなく知っている身近な風習でありながら、よくよく考えてみると謎に満ちた存在です。
本冊子では、そんなてるてる坊主の不思議な魅力にAtoZの26の切り口から迫ります。

高橋 健一（てるてる坊主研究所）

Contents

A 【Ashita tenki ni】あした天気に
B 【Bouzu】坊主
C 【China】中国
D 【Doll】人形
E 【Edo period】江戸時代
F 【Fine weather】いい天気
G 【Goro awase】語呂合わせ
H 【Hang】吊るす
I 【Iwasaki Chihiro】いわさきちひろ
J 【June】6月
K 【Kimono】着物
L 【Ladle】杓子
M 【Moji】文字
N 【Name】名前
O 【Ohiyori bouzu】御日和坊主
P 【Paper craft】紙細工
Q 【Queer】奇妙な
R 【Roots】起源
S 【Shine】照る
T 【Thank you】お礼
U 【Upside down】逆さま
V 【Violence】暴力
W 【Western Japan】西日本
X 【✖】罰
Y 【Yama nobori】山登り
Z 【Zenya】前夜

【Ashita tenki ni】あした天気に

「あした天気になあれ」と言いながら靴を飛ばす天気占いなど、季節の移ろいがあって天気の変わりやすい日本では、天気にまつわる風習が数多く伝えられ、親しまれてきました。そうしたなか、「あした天気にしておくれ」と願って吊るすてるてる坊主も、のこしていきたい風習のひとつ。

【Bouzu】坊主

かつては「日知り（聖）」と呼ばれる宗教者たちが日々の天候を観察し、ときにはそれをコントロールする役割を人びとから期待されていました。「てるてる坊主」という呼び名や、坊主頭の姿には、そんな「日知り（聖）」たちの名残が感じられると民俗学者の宮田登は指摘しています。

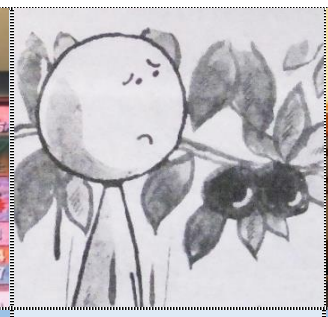
【China】中国

中国では長雨が続く時に掃晴娘（サオチンニャン）という人形を作る風習がありました。箒を手にした女の子の人形を赤い切り紙で作り、軒に逆さまに吊るして、雨雲が晴れるよう願うそうです。この掃晴娘が日本に伝わりてるてる坊主になったのではないかという説がありますが、真偽は不明です。

【Doll】
人形
東北地方の各地には晴天祈願の天気祭りが伝えられてきました。暴風雨や長雨といった悪天候を悪霊のしわざと見なし、その悪霊を大きな藁人形に託して外へ送り出してしまおうという行事です。民俗学者の柳田国男は「町の照々法師は、言はばこの天気祭の破片なのである」と位置づけています。

【Edo period】
江戸時代
文献や絵画資料の上では、江戸時代にはすでにてるてる坊主の存在を確認できます。浮世絵師の歌川国芳はユーモラスな姿のてるてる坊主をしばしば描いています。庶民に親しまれた川柳や黄表紙などにもてるてる坊主が数多く登場しており、身近な風習として根づいていた様子が窺えます。

【Fine weather】
いい天気
晴れていれば「天気がいい」、雨ならば「天気が悪い」といった具合に、天気にはプラス・マイナスの評価が付きもの。ときには、そこに自分の日頃のおこないが善いか悪いかを重ね合わせることも。てるてる坊主に期待されるのは、マイナス（雨）をプラス（晴れ）へと変える力です。

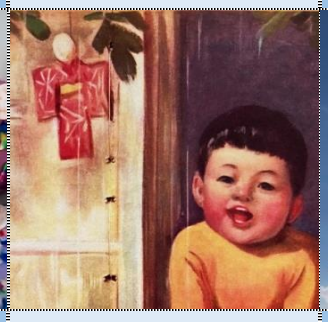


【Goro awase】
語呂合わせ
てるてる坊主はしばしば庭木の枝にも吊るされてきました。吊るす木の種類は梅や柿などさまざまですが、なかでも多く見られるのが、赤い実のなる南天の木。南天はその音が「難が転じる」に通じるため、てるてる坊主だけに限らず魔除けのまじないに重宝される木です。

【Hang】
吊るす
てるてる坊主はなぜ置くのではなく吊るすのでしょう。天と地の間に設置することで、天の神様に私たちの願いが届くよう橋渡しをしてもらうため？　わざと宙ぶらりんにして、まじないの効果を上げるため？　雨をもたらす悪霊を託し、風に吹かせて穢れを浄化するため？　謎の解明がまたれます。

【Iwasaki Chihiro】
いわさきちひろ
子ども向けの本の挿絵に、てるてる坊主がしばしば登場します。無邪気な子どもたちの姿を好んで描いた童画家いわさきちひろも、てるてる坊主を題材とする絵を多くのこした一人。真っ赤な衣を着てアジサイに吊るされたものなど、てるてる坊主の多彩な姿を淡いタッチで描いています。

【June】
6月
6月になるとよく見かけられるのが、晴天祈願のためというよりは、梅雨どきのシンボルキャラクターとしてのてるてる坊主。カレンダーや定期刊行物のイラストに用いられたり、街なかのショーウィンドウや掲示板に工作が飾られたり。傘やカタツムリやアジサイなどとともに、雨の季節を彩っています。



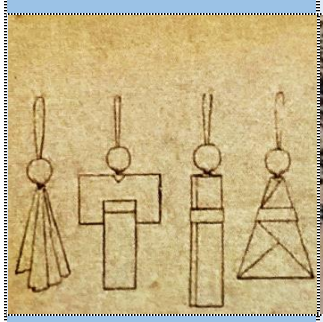
【Kimono】
着物
昨今のてるてる坊主は、すそをひらひらとさせたスカートのような姿をしていますが、かつては、そでのある着物を着て、帯を締めた姿が一般的でした。江戸時代から明治・大正を経て、昭和30年ごろまでのことです。着物や帯には、千代紙や色紙を使った色とりどりのものも見られました。

【Ladle】
杓子
明治の中ごろの報告によると、小倉（現在の福岡県北九州市）あたりでは「日和坊主」といって、杓子に目・鼻・口を半分ずつ書いて晴天を祈願しました。杓子とは丸くくぼんだ杓文字とかお玉のこと。願いどおりに晴れたら目・鼻・口を全部書くことを約束して、天を拝んだといいます。

【Moji】
文字
願いを文字にして書き込むことで、てるてる坊主の効き目をアップさせようとする工夫は、古今を通じて散見できます。書き込む文字は「てるてる」とか「あした天気にしておくれ」などさまざま。江戸時代、三河（現在の愛知県）では「天気天気」と記していたという報告がのこっています。

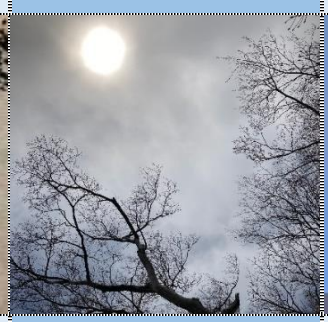
【Name】
名前
かつて、名前の前半部分は「てるてる」よりも「てりてり」のほうが一般的だった時代があります。江戸時代の終わりごろから明治にかけてのことです。当時は「てれてれ」という例も散見できました。また、後半部分も江戸時代の中ごろには「坊主」より「法師」のほうが多く使われていました。

【Ohiyori bouzu】
御日和坊主
幕末のころ、江戸の街には「御日和坊主」という托鉢僧がいたそうです。好天に恵まれるよう「お日和、お日和」と唱えながら、ふんどし姿で街を駆けまわり、祈祷のお礼に人びとから金銭を受け取っていました。玩具研究者の清水晴風が描いた『世渡風俗図会』に記録がのこされています。



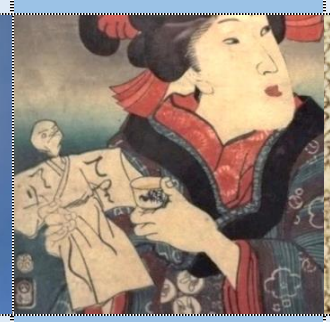
【Paper craft】
紙細工
かつて、てるてる坊主は「てり雛」とも呼ばれていました。江戸時代の中ごろから明治・大正を経て昭和前期までの文献に散見できます。雛人形というと、昨今では豪華絢爛な雛飾りのイメージが強いですが、本来は紙で作った素朴な形代。人びとはそこに災厄の元を託して流し、無病息災を祈願しました。

【Queer】
奇妙な
江戸時代の旅人・菅江真澄が、松前（現在の北海道）で見た奇妙な姿の「てろてろぼうづ」の絵を描きのこしています。着物を着ていて手足のある輪郭。縦に真っ二つにされて木の枝に逆さまに吊るされています。願いがかなったら、二つを合わせて真っ当な姿に戻し、ごちそうを差し上げるそうです。



【Roots】
起源
てるてる坊主の起源について「平安時代に中国から伝わった」とする説明が散見されますが、これは根も葉もない風説。いつどこで始まった風習なのか、いまだよくわかっていないのが実情です。確認できる最古の事例は1700年頃の随筆『榊巷談苑』で、「照法師」と記されています。

【Shine】
照る
晴天祈願のてるてる坊主は、なぜ「晴れ晴れ坊主」とは呼ばれないのでしょう。ひょっとすると、天気が「晴れる」ことよりも日が「照る」ことを本来は重視していたためなのかもしれません。兵庫県あたりでは「てるてるぼんさん、日が照っておくれんか」と日照を願うわらべ唄が伝えられてきました。

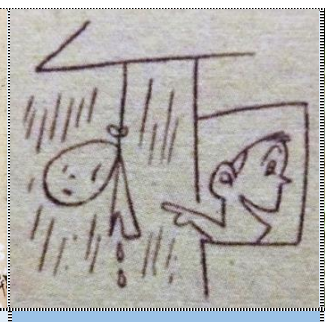


【Thank you】
お礼
願いがかなって晴れた場合のてるてる坊主へのお礼はさまざま。昭和初期の辞書をひも解いてみると、昔はお礼に墨で瞳を書き入れていたこと、その後はお神酒を供えて川に流すようになったこと、そして最近（昭和初期の当時）はまた瞳を書き入れるようになったことが記されています。

【Upside down】
逆さま
かつてはてるてる坊主を逆さまに吊るすのが一般的でした。てるてる坊主が吊るされる様子を描いた江戸時代の絵を見ると、いずれも逆さまに吊るされています。もし雨が降ってほしいときに私たちがてるてる坊主をわざと逆さまに吊るそうものなら、それは本来ならば逆効果なようです。

【Violence】
暴力
信濃（現在の長野県）からの報告によると、明治のころ、当地ではてるてる坊主を吊るすのではなく、木の幹に縛りつけました。それを子どもたちが手にした棒で打ちたたいたといいます。ずいぶん手荒い作法です。紙を丸めて作る頭の部分には、中に蜘蛛を一匹入れるとまじないの効果が上がるとか。

【Western Japan】
西日本
かつて、京都・大阪・長崎など西日本では、もっぱら「日和坊主」とか「日和坊さん」と呼ばれていた時期があります。江戸時代の終盤から明治・大正までのことです。その約100年間、西日本で「てるてる坊主」という名前が使われた事例は一切なく、東西の区分は厳然としていたようです。



【✖】
罰
童謡「てるてる坊主」では「それでも曇ってないてたら　そなたの首をちょんと切るぞ」と唄われます。願いがかなわなかった場合には、実際に首をちょん切られたり引っこ抜かれたりといった例が、古今の文献に散見できます。ほかにも、衣を脱がされたり、汚いドブに放り込まれたりと罰はさまざま。

【Yama nobori】
山登り
山歩きをしているとよく目にするのが、前を歩いている人のリュックサックに吊るされて揺れるてるてる坊主。山の天気は変わりやすく、好天ならば絶景で歩きやすい反面、悪天候だと雨風をしのぐのに一苦労で、ときには命の危険も。大自然の中ではてるてる坊主がお守りがわりです。

【Zenya】
前夜
「紙雛の幽霊花の宵に出来」という、江戸時代に詠まれた川柳があります。「紙雛の幽霊」とは幽霊のような紙製の人形、すなわちてるてる坊主のこと。「花の宵」とはお花見の季節の日が暮れて間もない時間帯。翌日にイベントを控えた前夜、ワクワクして好天を願う気持ちは今も昔も変わりません。

てるてる坊主研究所では、てるてる坊主について気になったことや考えたことをゆっくり深めていければと、noteやYouTubeで全世界に向けて活動を発信中！！

↑　noteはこちら

↑　YouTubeはこちら

参考文献

（★印があるものは、写真画像の引用元）

B　【Bouzu】坊主
★岡本昆石『古今百風　吾妻余波』1編、森戸錫太郎、1885年
・宮田登『日和見―日本王権論の試み―』、平凡社、1992年（初出は「てるてる坊主と日和見」『民博通信』11号、国立民族学博物館、1980年）

D　【Doll】人形
★内田武志・宮本常一〔編〕『菅江真澄全集』第9巻、未来社、1973年
・柳田国男『定本柳田国男集』第31巻、筑摩書房、1964年（初出は「「アシタ　ハ　エンソク」参考」『岩波講座国語教育　小学国語読本綜合研究』巻2第1冊、岩波書店、1936年）

E　【Edo period】江戸時代
★『呪いと占い』、川崎市市民ミュージアム、2001年
・名古屋市博物館ほか〔編〕『挑む浮世絵　国芳から芳年へ』、中日新聞社、2019年

G　【Goro awase】語呂合わせ
★『小学四年生』35巻3号、小学館、1956年
・鈴木棠三『日本俗信辞典』植物編（角川ソフィア文庫）、角川書店、2020年（初出は『日本俗信辞典』動・植物編、1982年）

I　【Iwasaki Chihiro】いわさきちひろ
★『ひかりのくに　生活習慣と社会性が身につく』13巻6号、ひかりのくに、1958年

K　【Kimono】着物
★『ひかりのくに　生活習慣と社会性が身につく』8巻6号、ひかりのくに、1953年

L　【Ladle】杓子
・柳田国男『定本柳田国男集』第12巻、筑摩書房、1963年（初出は「人形とオシラ神」『民俗芸術』第2巻第4号、民俗芸術の会、1929年）

M　【Moji】文字
・竹内利美ほか〔編〕『日本庶民生活史料集成』第9巻　風俗、三一書房、1969年
★『童謡画集』3、講談社、1960年

N　【Name】名前
★尾原昭夫『日本わらべ歌全集』27　近世童謡童遊集、柳原書店、1991年

O　【Ohiyori bouzu】御日和坊主
★清水晴風『世渡風俗図会』第2巻、未刊本

P　【Paper craft】紙細工
★『Art in education』17巻8号、教育美術振興会、1956年

Q　【Queer】奇妙な
★内田ハチ〔編〕『菅江真澄民俗図絵』上巻、岩崎美術社、1987年

R　【Roots】起源
・太田南畝〔編〕『三十輻』第1（巻之2）、国書刊行会、1917年

S　【Shine】照る
・北原白秋〔編〕『日本伝承童謡集成』第2巻　天体気象・動植物唄篇、三省堂、1974年（初版は国民図書刊行会、1949年）

T　【Thank you】お礼
・下中弥三郎〔編〕『大辞典』第18巻、平凡社、1936年
★名古屋市博物館ほか〔編〕『挑む浮世絵　国芳から芳年へ』、中日新聞社、2019年

U　【Upside down】逆さま
★尾上梅幸〔作〕花笠文京〔代作〕歌川国貞〔画〕『皇国文字娘席書』、丸屋甚八、1826年

V　【Violence】暴力
★『風俗画報』346号、東陽堂、1906年

W　【Western Japan】西日本
★松井由谷『麗新画帖』下、本田書店、1900年

X　【✖】罰
・『少女の友』14巻6号、実業之日本社、1921年
★『読切倶楽部』6巻6号、三世社、1957年

Z　【Zenya】前夜
・石川一郎〔編〕『江戸文学俗信辞典』、東京堂出版、1989年

てるてる坊主研究所

てるてる坊主研究所は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックのさなか、2020年に発足しました。WEB上の架空の研究機関で、所員は今のところ私1人だけです。

文献資料の上でてるてる坊主の存在を確認できる最も古い記録は、江戸時代半ばの1700年ごろ。今から300年あまり前のことです。ひるがえって、今から300年後にはてるてる坊主はどうなっているでしょうか。見当もつきません。

21世紀の現時点でのてるてる坊主の現状について、そして、てるてる坊主のこれまでの歴史をたどって解明できた途中経過について、WEB上に痕跡をのこしておくことで、いつか誰かの目に留まれば幸いです。

300年後のてるてる坊主研究のために。。。一緒に試行錯誤していただける研究仲間も募集中です。

◆

この冊子は、塩見直紀さん（半農半X研究所代表、Local AtoZ Maker）からお声がけいただき、作製に至りました。記して感謝いたします。

てるてる坊主の不思議AtoZ
作　者：高橋健一
発行者：てるてる坊主研究所
〒257-0011　神奈川県秦野市
尾尻941-13　レジデンスT103号
wokf24@gmail.com
発行日：2024年10月10日

てるてる
坊主
研究所